

会報一月号 子供「武士道」前編

目次

- ・ 義（公義）
- ・ 勇
- ・ 仁
- ・ 礼
- ・ 誠（信）
- ・ 名誉
- ・ 忠義
- ・ 克己
- ・ 慮（智）

新年、明けましておめでとございます。
今年も宜しくお願い致します。

今回は「武士道」の九つの徳目のうち、最初の三つを子供向けに紹介します。参考
にしているのは、新渡戸稲造「武士道」です。

「花は桜木、人は武士」「敷島の和心を人間わば、朝日に匂う山櫻花」

我が国において、武士道（大和心・大和魂）は行動の美学でありました…。

苦しい時、辛い時、困った時、悲しい時、嬉しい時などに、武士道を学んだ人たちは
どうやって自分の考えと行動を決めてきたのでしょうか。単なる勝ち負けや損得を基
準にするのではなく、「和」「美」「中（進歩発展）」を考えてきました。例えば、正義
を通すには、勇気と思いやりの心が必要です。人の間違いを見つけたからといって
「お前が間違ってる」と叫ぶことが正義とは限らないのです。正義を押し付けるの
ではなく、どうすれば正しい道が選べるかを考えるのです。迷ったら、武士のように「カ
ッコいい」「美しい」行動を選べるようになることが、今月の会報の目標です。

それでは、武士の心、精神の背骨を一緒に作りあげましょう。以下の九つで組み

立てます。①義（公義）②勇③仁④礼（愛）⑤誠（信）⑥名誉⑦忠義⑧克己心⑨慮（智）。これらによって培われた心が大和心・大和魂です。それは、異心（臆病・怠惰・傲慢・私利私欲）を斬り捨てて、埋もれていた本心（造化・神仏・天地・父母の心）に立ち返り、その心で自己実現と和親共栄を期していく「造化の心」なのです。

※本心（造化の心）は、幽体離脱のように、我欲という異心を体から離すと出てきます。造化の力を妨げることが無くなり、自らの身体を通して造化が顕現します。どのような世界が見えるでしょうか。見える（認識できる）世界が自分の心の形、もの見方・考え方です。従って、心が変わらなければ世界は変わりません。

※本心（造化）の存在は知性知覚ではなく、体感体得できるかどうかです。

では、最初の三つの徳目を、それぞれ四段階（基礎・応用・実践・発展）で確認していきます。

一、義（公義）：「仁は人の心なり、義は人の路（狭い道）なり」

①基礎

・義とは、人として正しいことです。人としての正しい道です。自ら正しいと信ずることです。人間として必ず持つていなければならない心です。

・義が無くては気骨のない人間になってしまいます。

・自分の損得ではなく、人のためになるか、全体のためになるかと、長期的・多面的・本質的・エリートとして、もっと大きく広く高く深く：、視線を上げて「どうするのが正しいことか」を考えます。

従って、本質的な道理を学ぶことは大切です。昔の人は、孟子（義利の弁）、伝習録（良知）、大学（格物致知）等、道理を学ぶことに本心に熱心でした。私利私欲を抜きに、これが正しいことだとわかれば、後は勇気を出すだけです。勿論、正しいと思った行動が、全て良い結果をもたらすとは限りません。結果は未来にあり、そこは予想はできません、自由に全てを決めることはできないからです。そして、結果に対する評価というものは、評価する人の立場によっても、評価する時期によっても変わってしまうものです。「良い結果になるとは限らないのなら、義なんか無くてもいいじゃないか」、とあなたは思うでしょうか。それは心得違いをしています。未来に対して、常に良い結果が約束されなければ物事に取り組まないというなら、それは勇気のない臆病者、卑怯者、怠惰な者の採る態度であり、それは武士道を学んだ人間の採る態度ではありません。

②応用

・知行合一（実践躬行）：自分で実際に行動することを目指します。すなわち、義（正しいこと）が分かったなら、勇気を出して義を実行します。知っただけで行動に移せないのならば、知らない人と何が違うのでしょうか。

・卑怯者（すぐ逃げる、正々堂々していない）になってはいけません。

・敵に塩を送る（上杉謙信と武田信玄の逸話を思い出してください）ことが義である

という事もありません。

③実践

・自分の損得より正義(道理)です。

しかし、そこに仁(思いやり)がなければ、自分の正義の押し付けになってしまいます。相手には自分と違った正義があるかもしれません。仁については、後ほど一緒に勉強します。正しさと、相手への思いやりを両方考えて、「中(進歩・発展)」に現状を変化させていけるかどうか、腕の見せ所なのです。

④発展

・ここで言う「正しいこと」とは何でしょうか。正しいとは、「一」に「止まる」と書きます。この「一」とは何でしょうか。万物を生成化育させるはたらきを言います。これを、道理と言ったり、神様、仏様、天、大宇宙、大生命、大自然の摂理、法則、秩序、大調和、天地の心、父母の心、愛、慈悲、仁、誠、中庸、絶対自慊と永久不慊、絶対、無私、無心：：等、様々な言葉や概念で説明します。変化や結果は見えても、はたらきそのものは、なかなか目に見えないから、それを伝えようとすると色々な言葉になってしまうのです。言葉ではなかなか理解できないかもしれません。自然を観察したり、様々な経験を通して少しずつ、そして深く深く会得していくことでしょう。

この生成化育のはたらき(正)の最初の段階が、相手と交わろうとすることです。そのためには、相手を尊重して思いやることが不可欠です。それから、相手を受け容れ合い、協力し合い、許し合い：：そうやってお互いが繋がって新たなものに変化(生成化育)していきます。このはたらきが根本にあるのです。これを正と言い、道理と言い、天と言い、神と言い、造化と言い、無私と言い、愛と言い、仁と云い：：ます。ここで、いつも使っている言葉を少し深めておきましょう。

「知る」という言葉の本質的な意味は、自我を以て対象を記憶することではありません。慈愛を以て対象と一体化することです。認識の問題ではないのです。だから、「お前のことなんか知らないよ」というのは、相手や相手の提案と一体化することは御免だね、という意味です。国を統治することを「しらす」と言います。これは、君主として君臨するという意味ではなく、人民や国土と一体であろうとする感覚なのです。「しらす」は「知る」から派生したと分かりますね。

では、「考える」という言葉はどんな意味でしょうか。「かんがえる」は「かみむかへる」で、神(正・造化・道理)に向かい、神(正・造化・道理)を迎え、神に交わり、神に帰るといことです。

言葉にも、人間関係にも、そしてあらゆることに「生成化育のはたらき」を観ることができるようになります。

二、勇：「義を見てせざるは勇なきなり」

①基礎

・正しいと分かっているのに、それを実行しないのはなぜでしょうか。

勇気を出していないからです。正しいことを理解するのが、先ほどの「義」の教えですが、それを行動に移すのが「勇」の教えです。

・勇とは、気力が強く勇ましい心、思い切りが良い態度です。

もう少し考えてみましょう。みんな同じ人間なのに、勇気を出せる人と出せない人がいるのはどうしてでしょうか。まず思いつくのは、義のある人と無い人の差です。では、なぜ義のある人と無い人がいるのでしょうか。これは「人物論」や「死生観」と密接につながっています。ここで深入りすると先に進めなくなりしますので、簡単に伝えます。私たちが、どうしても避けられないことが一つあります。それは、死です。いつ死ぬかは分かりませんが、私たちは必ず死にます。まだ若いみなさんは、自分の「死」について深く考える機会は少ないかもしれませんが、しかし、いずれ死にます。この意味においては「生命」とは、「死ぬまでの残り時間」ともいえます。もちろん、「命」を大きな視点から見ると、「死は無い。今までもこれから誰も死んではいない」という全然違った答えも出てきますが、今回は控えます。

死を深く思い、死を覚悟すること、如何に死ぬかを考えることで、必然的に「いかに生きるか」に思い至ります。死と生は不可分なのです。ここは大切なところですよ。物事というものは常に、一見相反するようなものとセットで存在します。「作用反作用の法則」もあります。目の前にある紙を見ても、表と裏のセットで一枚です。ペンで文字を書くにも、文字を書くために動かす手と、紙を動かさないように支える手がセットで「書く」行為が生まれます。体を筋肉で動かすにも、常に片方の筋肉を収縮（緊張）させながら、反対の筋肉を伸展（弛緩）させます。片方だけでは物事は上手に成立しないのです。

話を戻しましょう。想像してみてください。自分が死ぬ瞬間、周りにどんな人がいますか。その人たちに「ありがとう」を伝えられますか。ひとりでは生きられなかったと実感していますか。その人たちに優しくできませんでしたか。自分のできることはやってきましたか。「楽しかった」「頑張った」と言えますか。最後に思い出すのは、みんなの笑顔でしょうか。みんなを笑顔にできましたか。もし、こういうことを考えてみて、生き方を変えなければと思ったら、これからどう生きていきますか。物事は二つセットで一つでした。思ったら、その思いを行動に移すことです。「思う」「行動」これはセットです。「こういう人間になる。こう生きる」と心を定めることを、志を立てると言います。「死」を思うことで「生」が見えてくるように、「志」を立てると自分の「義（人として正しいこと）」が見えてくるのです。志と義もセットです。「私はこう生きる」という志の奥底にあるのは、周囲の人たちへの「ありがとう（感謝）」です。これを「感恩の情」といいます。感謝とセットになるのは「報恩」、つまり、受け取った恩に報いていくことです。

義（人として正しいこと）を守り、今生きている事に感謝して、「私はこう生きる」という志を立ててください。そうすると、必ず勇気が出てきて笑顔になりますよ。

② 応用

・「匹夫の勇」という言葉があります。義のない人の無鉄砲さ、道理を弁えない人の犬死にをいいます。生き抜くべき時は生きて死ぬべき時に死ぬ。これが勇ですが、ここは誤解を生みやすいので、今のみなさんは、どんな時でも生き抜く、何があっても平然と生きてください。ひとりひとりの命というのは、最も大切なものです。その命は、他との繋がりの中でしか存在できません。つまり、私たちは、ひとりだけでは生きていけません。自分の命は自分のものであって、自分だけのものではないのです。あなたの命は大切に育まなければなりません。疎かにしたり、捨てたりすることは許されません。

・胆を練る↓肝試し↓恐るものと恐る必要のないものを知りましょう。

・論語読みの論語知らず↓知識はあるが実践のない者をそう呼びます。みなさんは、「言に訥(とつ)にして、行いに敏(びん)ならんと欲す」であって欲しいと思います。

③実践

・やるべきことが分かるのが「義」、それを行動に移すのが「勇」です。義の為に行われなければ、どんなに勇ましい行動に見えても、それは勇ではありません。ただ危険を犯すことが勇気ではないのです。勇気ある行動といえるためには、その奥に義がなくてはいけません。ただの怖いもの知らずになる必要はありません。「君子危うきに近寄らず」です。本当に必要な時に勇気を奮い起こして行動できることが大切なのです。

・知らないことは「知らない」、できないことは「できない」と言うのも勇気です。
・義を見てせざるは勇無きなり↓人として正しいことが分かっているながら、それを行動に移せないのは勇気のない人です。

※ここで、なかなか勇気が出せない時、挫けそうになった時に、自分の中にある勇気を引き出す方法を伝授しましょう。まず、胡坐(あぐら)をかか、椅子に座るかしてください。その状態で、

①歯を食いしばれ

②拳を固めろ(第一第二関節を小指から順に曲げて、今度は人差し指から第三関節を曲げて握りこみ、最後に親指で人差し指と中指(と薬指)を押さえるように沿えます。詳細は師事して会得してください)

③足の指も曲げて握りこめ

④ケツの穴を締めろ

⑤下っ腹も固めろ

もっと強くもつと強くもつと強く！これで気合が入る。

ん？他のやり方も知りたい？時間に余裕があるようなら、両腕を胸前にして、そこで拳を固めて百回ほど四股を踏みます。体の中心に軸がしっかりできてきて、勇気が湧いてきます。

④発展

・正しいことを理解して、それを行動に移すのは勇気が要ります。しかし、子供のカだけではできないことがあるのは当たり前です。その時は、大人に助けを求めます。これも立派な勇気です。大人でも同じです。ひとりできなければ助けを求めます。「自分のその行動の奥底に義があるかどうか」、それだけを確認してください。

三、仁：「仁なる者は人なり(仁がなくては人間ではない)」

①基礎

・仁とは、相手を思いやる心。万物を生成化育させる父母の心、天地の心、慈愛、慈悲の心です。仁の心がはたらきとなったものが、生成化育です。これを「造化」といいます。ものを生成させ化育させていくためには、自己単独だけではダメです。他己(他者)と繋がらなくてはなりません。物事は二つでセットでした(もちろん二つ以上でもOKです)。みんなとの繋がりの中で、それぞれの個性を調和させて新たなものを生み出したり、新たなものに変化していくことを造化と言います。他者と繋がる(関係性を構築する)最も根本的な姿勢は、お互いが相手を尊重することです。それを「思いやり」といいます。だから、造化(生成化育)はお互いの「思いやり」から始まります。始まりを持つということはとても大切なことです。そこで、仁を「思いやり」と訳すのです。

・仁は「人」と「二」です。この地球上のどこかで、どの国の誰と出会ったとしても、その出会った二人の間には根本的なルールがあります。それが、「お互いを尊重して思いやる」ということです。従って、仁(思いやり)がなければ、その二人は人間ではなくなってしまいます。

・違う言葉で言うと、仁とは愛です。人を受け入れる大きな心です。人を許す大きな心です。人に対する思いやりを示して大切に思うことです。母のような優しい心です。

・仁は、人の上に立てば立つほど必要となります。強い人ほど、弱い人を思いやって譲る心が必要です。だから、思いやりのある人は、忍耐力もあります。相手の為に我慢できる人、譲れる人は、強くて優しい人です。

②応用

・「武士の情け」↓弱い者への労り、優しさです。

・「惻隱の心は仁の端(はじめ)なり」↓四端(孟子)。悲しんでいる人と共に悲しむ心。同情心やあわれみの心です。同情し、共感し、他者の苦境を見過ごせない、忍びざる心で、誰もが持ち合わせている感覚上の発露の現れです。

・「窮鳥(きゆううちょう)、懐に入れば獵師も殺さず」↓たとえ争っていても、相手が助けを求めてきたら、それ以上争うことをしないということです。

③実践

・オヤツをどう分けるか↓兄弟喧嘩しないためのオヤツの分け方を知っていますか。
・勉強しない弟にどう接するか↓一緒に勉強して、弟の勉強をみてあげる。

- ・前に座っている友達のカンニングを目撃してしまったら↓友達の言い分をまず聞いてみよう。

④ 発展

- ・「人の気持ちを考えていますか」「相手を大切にしていますか」↓自分だけオヤツ食べていたら、友達はどうな気持ちになるでしょうか。

<p>【礼】 ・仁義の心を形にしたもの ・共に喜び、共に悲しむ ・機嫌良くいる</p>	<p>【誠/信】 ・言ったことを成し遂げる→武士に二言はない ・すぐに取り掛かる</p>	<p>【名誉】 ⇨ 恥 己の役割を果たし、自分を誇らしく思う心 廉恥心</p>
<p>【仁】 造化の始まり→人を思いやる/許す/受け入れる心</p>	<p>子供武士道 目的: 君子たれ</p>	<p>【忠義/忠孝】 所属の場/組織を一番に考え、自分は二番</p>
<p>【勇】 義を行う→勿論、正しいと思っただ行動が全て良い結果になるとは限らない</p>	<p>【義/公義】 正しいこと→勿論、正しいと思っただ行動が全て良い結果になるとは限らない</p>	<p>【克己】 【智/慮】 ・異心→本心へ立ち返る ・己を以て人をはかるな</p>

今回はここまで。

それでは、今年も健康と健闘を。本年も宜しくお願い致します